

# 近江八幡市立島幼稚園

この会場では、琵琶湖畔へ移動し、水辺のフィールドを生かしたプログラムづくりを行いました。水に入ることができる季節ならではの体験や、琵琶湖岸の砂の感触を感じとる内容を採り入れた自然体験の工夫について実践的に学びました。

## 「見て、さわって、不思議体験」のプログラム

ルーペをつかって浜辺を探検、草や砂つぶを観察し、普段は気づかない自然の造形のおもしろさを発見したり、乾いた砂浜とぬれた砂浜の両方で砂遊びをして砂の感触の違いを楽しむプログラムができました。

下見の際に、まず参加された先生方自身が感激された、ルーペを使うことによって見えるさまざまな色や形の不思議さや驚きを子どもたちにも経験してほしい、という想いを込めて考え出されたものです。



小さな虫が森の中にある動物みたいや

ルーペを使って観察する子どもたち

砂の中でジャンケンポン



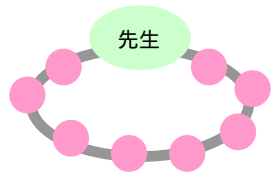
砂の中って冷たいなあ！



先生っ、ぬれてる砂は固いよ～！

琵琶湖岸の砂と園の砂場の砂とどんなふうに違うかな？

例えば子どもたちが「砂って何なんだろう？」と考える時間には、子どもたちがバラバラになってしまわないように、子どもたちと先生の位置に気をつけることが大切です。(講師：環境レイカーズ 島川武治さん)



## 「プカプカ・サラサラ・ザーッ!!」のプログラム

波には、砂浜にあるものを流して動かしたり、砂浜に模様を描いたりする力があります。

湖岸にある木ぎれや葉っぱや石を使って、波打ち際で遊びながら、打ち寄せる波の力やリズムを感じるプログラムができました。

砂山づくりはおもしろいよ!



あーっ!  
波にこわされて  
しまうよ~

子ども  
「波でつぶれる!」

子ども  
「雨が降った  
らつぶれる!」

先生  
「この砂山はど  
うなるのかな」



波にさらわれな  
いように、枝の  
上に砂をのせた  
んだよ。

どれだけ高く積めるかな?

楽しく遊んだ後は...



花火の棒が  
あったで

自然と仲良しで  
ないこんなもの  
は袋に入れて持  
って帰ろうね

缶カンのふた  
が落ちてた

自然体験を通して出てくる子どものつぶやきは、子どもたちがこれまでに見たり聞いたり経験してきたことに裏付けられているものなので、指導者(支援者)は聞き逃さずとらえましょう。(講師:島川さん)

## 声

### 参加された先生方の

自分の中で、「自然体験をしなくては」と気負いすぎていた。自然がないからできないなどと思いこんでいたことを反省した。

素朴な木や石や葉っぱで遊ぶということに目からうろこが取れた思いがした。

子どもたちは自然の中ではいつもと違った面を見せてくれた。私自身も自然の良さを新たに発見できた。

子どもたちに何を伝えたいかを考えることからプログラムができあがってきた。

やりっぱなしにしないで、今回学んだことを、園に帰って指導者で共有し、園児の家庭に返していきようにしたい。

自分にとっていけないのがゴミではなく、自然の中に落ちていることが不自然なものがゴミであることに気づかされた。